

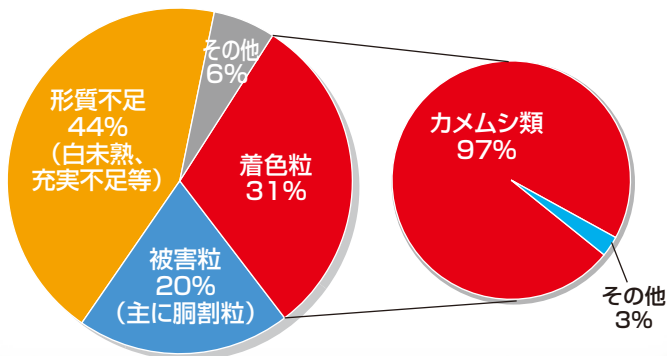
イネ斑点米 カメムシ類の対策を徹底しよう!



丹精こめて作ったお米も玄米1000粒に
着色粒が**2粒**あると**2等米**に!



2等以下に格付けされた主な理由(平成28～令和6年産)



栃木県産米の品質低下理由のひとつは、着色粒(斑点米カメムシ害)です。

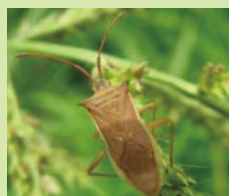
斑点米被害を防ぐためには、水田にカメムシ類が近寄りにくい環境を作ること、薬剤による効果的な防除を行うことが重要です。

特に山間地・早生品種は要注意

注意



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



イネカメムシ

県南部で増加中

対策
その1

水田内の除草!



ヒエの穂



イヌホタルイの小穂

イネの出穂前に結実するヒエの穂、イヌホタルイの小穂はカメムシ類の誘引源・発生源となるので、結実までに除草しましょう。

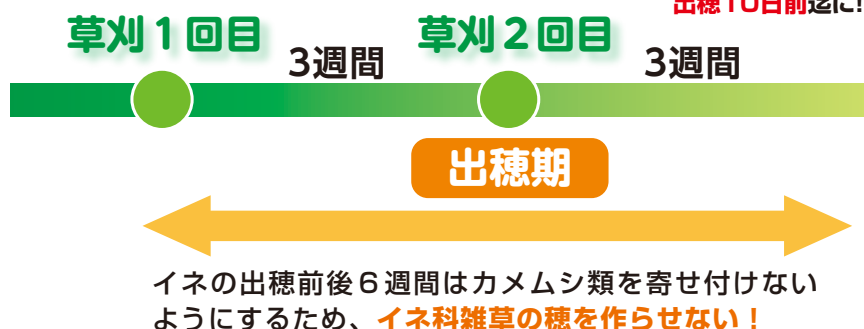
対策
その2

畦畔2回連続草刈で

カメムシ類を寄せつけない!

畦畔2回連続草刈とは、出穂2～3週間前と出穂期頃の2回連続で草刈し、カメムシ類を寄せ付けない技術です。適正時期に草刈を実施し、カメムシ類の侵入を防ぎましょう。

※2回できない場合、
出穂10日前迄に!



対策 その3

地域の一斉草刈でカメムシ類の密度を下げる！

カメムシ類の生息密度を下げるためには、日頃から草刈を行うことが原則です。草刈をして、「地域にイネ科雑草を繁茂させない」ことが重要となります。

地域全体で一斉草刈を行い、**カメムシ類が水田周辺のイネ科雑草に飛来しない環境づくり**を心がけましょう。

対策 その4

薬剤の適正使用でカメムシ類を確実にたたく！

①常発地のカメムシ類は2回防除が基本です！

カメムシ類の加害期間は長いので、常発地では1回の薬剤防除では不十分です。薬剤の特性を活かして、適期防除に努めましょう。



液剤＋液剤 防除体系

液剤①
スタークル液剤10
スミチオン乳剤
など

7～10日後

液剤②
キラップフロアブル
トレボンEW
など

粒剤＋液剤 防除体系

※この体系は小型カメムシ
(カスミカメ)向けです

粒剤
スタークル粒剤
ダントツ粒剤
など

2週間後

液剤
キラップフロアブル
スタークル液剤10
など

注) 2回防除では、登録内容を充分確認して同じ作用機構(IRACコード等)の農薬を連続して使用しないように心がけましょう。

②イネカメムシの防除

前年にイネカメムシの発生や稲の青立ち、不揃が見られた場合は、イネカメムシ対策として**出穂期に液剤防除を行いましょう。**

③カメムシ類に効果の高い薬剤

(令和7年4月9日現在)

剤型	農薬名	IRACコード	有効成分の名称
液剤	スミチオン乳剤	1 B	MEP
	キラップフロアブル	2 B	エチプロール
	トレボンEW	3 A	エトフェンブロックス
	スタークル液剤10	4 A	ジノテフラン
粒剤	スタークル粒剤	4 A	ジノテフラン
	ダントツ粒剤		クロチアニジン

※農薬の使用にあたっては、最新の登録内容を確認して正しく使用してください。

JAグループ栃木
担い手サポートセンター

LINE@
友だち募集中!



ID:@jatochisaposen

営農に関する情報を随時発信中！
QRコードまたはID検索より登録を
お願いします！